

年間第二十四主日

2013.9.15

ルカ 15・1-10

台風接近の悪天候の中、今朝も、こうしてこのミサ集うことが出来たことを、ここに集ったお互い同士ともに感謝いたしましょう。今日に限らず、毎週のミサの度ごとに、私たちは皆、それぞれの生活の中から大変の思いをしてミサに集っています。そのような私たち一人ひとりの信仰ゆえの苦勞を、ここに私たちを呼び集めてくださった主が、今日の福音に示されている大いなる喜びをもって迎え入れてくださり、ここに集う私たちがその喜びに与ることが出来るよう祈り求めたいと思います。

ミサが私たちの喜びとなるためには、ここに集う私たちが、ここに私たちを招いてくださった方の喜びを知らなければなりません。そのお方にとって、今日も私たちがこうして、このミサに集っていることが何よりの喜びであるはずです。ここに私たちを招いてくださったお方は、全ての人を招くために、その弟子たちを通して、弟子たちから始まった教会の中に、「わたしの記念として、これを行いなさい」と言われて、このミサの祭儀を始めてくださったのです。このことを、今日もこうしてこのミサに集った私たちが信仰によって受け止めることが出来るとき、私たちはこのミサの中で、ここに私たちを招いてくださったお方の心を満たしている喜びに与ることが出来るのです。このミサの中で、司祭の口を通して復唱される私たちの主イエス・キリストのみことばは、私たちがここに集ってくれたことを喜ぶ、このミサの創始者であるイエス・キリストのみことばです。「わたしの記念としてこれを行いなさい」と弟子たちに命じられた主イエス・キリストは、この世のいのちを生きる私たち全ての者のために十字架の上にそのいのちを与えつくし、その記念として、このミサの祭儀を残してくださったのです。そのようにして、私たちの主イエス・キリストはこのミサに集う私たちを、御自分の十字架のみもとに招き、その十字架を通して開かれた、神のみもとにおける永遠のいのちの宴の喜びを味あわせてくださろうとしておられるのです。その主の思いを受け止めて、私たちがここに集って、招かれた感謝のしるしとしてのこのミサをともにささげる者たちとなっていることが、ミサの創始者である私たちの主イエス・キリストのこれ以上にはない、大いなる喜びなのです。ここに集う私たちがその喜びに包まれる時、私たちの間に天の国の喜びが始まっているのです。その喜びの中で、今日も私たちの主イエス・キリストは、「とって食べなさい。これは、あなたがたのために渡されるわたしの体である」と言われて、十字架の上で私たち全ての者

のために与え尽くされたそのいのちを注ぎ込んでくださるのです。信仰のうちに私たちがその聖体を拝領することが、そのようにして御自分のいのちを与えようとしてくださっているお方のこれ以上にはない喜びなのです。その喜びを、今日の福音のみことばは、私たちに吐露しているのです。

この世に生きる私たち全ての一人ひとりが、迷える一頭の羊なのです。その迷える一頭の羊を探し求めて神のみもとに連れ戻すために、もはや迷い出る心配のない多くの羊たちを天に残して、私たちの真の牧者はこの地上に来てくださったのです。これが、今日の福音のたとえ話に凝縮されている聖書全体を通して示されている真の牧者である私たちの主である神の愛のお姿です。今日の福音のみことばを、今日も私たちに語り聞かせてくださるイエスは、そのような神の愛のお姿を余すところなく体現して、私たちに示してくださっているのです。

この世の生を生きる私たちの日々は、あてどなく迷い出た一頭の羊のような日々です。私たちの主が招いてくださるこのミサの中に心底身を置くことが出来るとき、私たちにもそのことが分かってくるはずです。牧者のもとから迷い出た羊は、絶えず危険にさらされ、不安に苛まれています。腹を満たす青草を求めて絶えず動き回らなければなりません。そして、その行く手には見捨てられた者の死が待ち受けているのです。そのような日々を生きる私たちは、このミサに集うことによって、今日も私たちに招いておられる、私たちの牧者である主の呼び声を聞いたのです。私たちがその招きのみ声を聴き分けることが出来るように、私たちの主イエス・キリストはこのミサの場に私たちに招いてくださったのです。

この世に生きる私たちが自分でも気付いていない、私たちの心の部屋のどこかにしまい忘れてしまっている、真の安らぎを求める心を、私たちにここに呼び集めてくださった主は、私たちとともに探し出そうとしていてくださるのです。そのありかを、私たちが見出すことが出来るよう、このミサの中で主は私たちの心を掃き清めてくださろうとしているのです。失くしてしまった貴重な一枚の銀貨を必死になって捜す母親のように、私たちの心の隅々に灯りを近づけてくださろうとしておられるのです。ここに集う私たちの心の片隅に、その灯りに照らし出された光輝くものを見出すことが出来た喜びを、主とともに味わうことが出来るとき、私たちは私たちに招いている天の喜びがどれほどのものであるかを味わい始めることが出来るのです。

今日のミサの中に響いているみことばを、ここに集う私たち一人ひとりに向けて語りかけるみことばとして受け止めることが出来るとき、このミサに集う

ために私たちが払った大きな犠牲は、私たちの心を喜びに満たすものとなること
とでしょう。そのような恵みを願って、このミサの中に示されている、私たち
を招く主の愛の思いに満たされることを願ってともに祈りたいと思います。

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高